

126 No. 6:台湾で増える日本酒消費－益子焼とコラボに注力－ (平成 30 年 7 月 31 日)

2017 年の日本の農林水産物・食品輸出額は約 8,070 億円で、そのうち台湾は 837 億円を占めた。台湾への輸出額は、香港、アメリカ、中国に次ぐ第 4 位で、重要な市場の 1 つと言える。中でも、アルコール飲料は、約 53 億円を占め、りんごに次ぐ第 2 位の輸出主要品目である。

日本からの清酒輸出量の推移 (2007～2017 年) をみると、09 年を除き、ほぼ 1,700 kℓ前後で推移し、15 年からは 2 千 kℓ前後で推移している。一方、輸出額は 09 年を除き、5 億円台だったものが、15 年から 9 億円前後に伸長している。高級な日本酒、いわゆる地酒の輸出が増えていることがうかがえる。

台湾では、日本酒にかかる関税率が 40%と高いため、日本国内に比べ 2、3 倍の価格になるが、価格重視のナショナルブランドと、味わいを求める日本の地酒とで購買層が分かれる。地酒は主に日本料理店などで愛飲され、百貨店、高級スーパーマーケット、酒専門店での取り扱いが増えている。最近台湾の酒蔵も純米吟醸など、高級清酒を目指した酒造りがされるようになっており、競争は激しい。

こうした中、6 月 27 日～30 日の 4 日間、台湾最大級の国際総合食品見本市「**FOOD TAIPEI 2018**」が台北市で開催された。本県からは、島崎酒造 (那須烏山市) がマウンテン・トライブ社 (宇都宮市) とともに出展し、ブースを訪れるバイヤーたちに対し積極的に商品説明や試飲を提供した。

島崎酒造は、世界最大級のワイン品評会「**インターナショナルワインチャレンジ (IWC)**」の古酒部門でトロフィーを受賞した「大吟醸 熟露枯 秘蔵 10 年」等を出品した。試飲した多くのバイヤー達は、大吟醸古酒のまろやかな口当たり后感服していた。

台湾市場に詳しいマウンテン・トライブ社のアドバイスに基づき、益子焼の酒器とのコラボレーションによるプロモーションを展開。幅広い客層から注目を集めた。益子焼のぐい呑みで、とちぎの地酒を飲む。そんな台湾人が増えるよう、当事務所としても力を入れて参りたい。

なお、島崎酒造では毎年、酒造り体験を開催す。田植え体験に始まり、稲刈り、烏山和紙、陶芸など、日本の原風景を丸ごと体験できる貴重な催しだ。インバウンド向けの素材として多くの外国人に紹介し、体験してもらうことで、栃木の良さをリアルに伝えられるのではないかな。



【FOOD TAIPEI 2018 の様子】

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993 年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構 (ジェトロ) に出向。2017 年 4 月から現職。栃木市出身。